

## ことばを育てるヒント … 「話をするために必要な力」

前回に引き続き、「話をするために必要な力」についてご紹介します。

### ④発声：よく声をだしますか？

【あそび】＊手遊び歌や、テレビなどの歌をまねて一緒に歌う（一部だけでもよいです）。

＊マイクあそび。マイクを子どもの口に近づけると、自分の番だと気付く合図になり声がでやすいです。

＊大きな声で遠くの人を呼ぶことや、小さい声での伝言ゲームなど。

### ⑤模倣：身振りや発声・ことばのまねをしますか？

【あそび】＊動物の動作や鳴き声のまねあそび。

（グループなら、動物鳴き声当てっこゲームなどもよいですね。）

＊ボール・つみき・ままごとなどのおもちゃを使ったあそびを通して、動作（投げる・積む・人形を寝かせる）や、ことば（「ぼーん」「のせて」「ねんね」）のまねをする。

＊大人の言った短い文章をまねして言う。

例：「手はおひざ」「今日は寒いです」「明日は動物園へ行きます」

☆いずれも声やことばをださせよう・まねさせようと気負わなくて大丈夫です。

大人もぜひ一緒に楽しんでください。

参考文献：中川信子著 ぶどう社

## ～乳幼児期の育ちを考える～



### 『遊びは心の栄養素』

人の成長に大事な非認知能力はいつどこで育つのか？それは、就学前の子ども達が身につける能力で、遊びの中から学んでいくのは理解していただけたでしょうか。

学びは知識や技術を身につけるのではなく、自分で感じ、考え、行動する事で広く、深く、豊かになっていきます。

そのためにも全方向の遊びをしてあげれば良いのですが、パズルばかり、車でしか遊ばないなど一つのものにぐっと入り込む時期があります。大人は焦りますが見守ってみましょう。

集団生活では、友達から注目されます。

我が子の保育所時代は「虫博士」や「車博士」と呼ばれる子どもがいました。そんな友達を自慢気に話す我が子を含めた周りの子ども達が素敵でした。そうすると他の友達の良いところは何だろうと探し始めます。皆が認め合う、それが次のチャレンジへの意欲に繋がるのは容易に想像できると思います。

非認知能力は、社会性に繋がる部分が多い事をNo.3で説明しました。

土台である自己を確立するために感情のコントロールも物に向かう事で整えていくのです。誰かに頼って慰めてもらわないと立ち直れない姿ではなく、心も体も自立していく過程は生まれた時から始まっています。人形に感情移入したり、好きな遊びに没頭するのは大事な力です。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます  
夢と希望もてる たからっこを  
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター

〒665-8665 宝塚市東洋町1-1

電話 0797-71-1141(市役所)

0797-77-2132(直通)

FAX 0797-71-1891

E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。